

令和2年度 3学期始業式 式辞

新年、明けましておめでとうございます。10日間の冬休み、少しは休めたでしょうか？3年生はそうはいきませんね。先月紹介した脳科学者池谷裕二さんが言うように、①寝る前に知識・記憶中心に勉強し眠ること(レミセンス効果)。②入力、出力を伴うと記憶に大変有効。③優秀な人は勉強に興味・関心・楽しさを感じている。この3つで中学生の学力アップどうでしょうか？

さて、真っ先に伝えたいことは、医療や物流・飲食等のエッセンシャルワーカーへの感謝と激励です。次に音楽の力を信じて皆さんを励まし、もう一つは、このような時こそ読書の素晴らしさについて書いてみました。

まず、音楽の力ですが、年末に「ベートーベン生誕250年、年末恒例の第九」がNHKでTV放映されました。ベートーベンは革命家と評されフランス革命時代、伝統を打ち破り音楽家を貴族の奴隷の身分から自立させました。後に聴覚を失いましたが、最後まで希望が伝わる曲を書き続けました。歌詞に「星の彼方に必ず神は住みたもう(Über Sternen muß er wohnen.)」とあります。2曲目はヴィクトル・ユゴー原作の有名なミュージカル『レ・ミゼラブル』です。日本中から舞台の灯が消えた時、40人以上のミュージカル俳優が参加し『民衆の歌』が昨年4月YouTubeで公開されました。歌詞「民衆の歌が聞こえるか？／倒れる者もいる／自由の権利を得るために／立ち上がろう！」力が沸いてきます。3曲目はミュージカルキャッツです。第二幕に長老猫デュトロノミーが「本当の幸せとは何か」と問いかけ、「天に上るただ一匹の猫」を決定するとき、年老いて薄汚いグリザベラが現れ、周りの猫から軽蔑の目を向けられる中、「夜明けとともに新たな命をこの夜を思い出にして明日に向かう」と「メモリー」を歌います。

最後、書いたものは、「このような時だから読書を！」です。先月見た横山秀夫さんのTVドラマ「ノースライト」についてです。あらすじは「主人公の建築士が自分の設計した家に、ブルーノ・タウトゆかりの椅子を残したまま、忽然と姿を消した一家の謎を追うミステリー」です。ドラマに出てくる「Y邸」は実際にロケのためだけに建てられ、北側の窓には油絵のカンヴァスのように軽井沢浅間山が見える素晴らしい家でした。しかし、その信濃追分の美しさや、主人公が巡る宮城県、群馬県等への壮大な旅、最後の想像もしない結末は、TVでは余りにも短く編集されています。TVの可能性と限界、本の創造性と無限性をひしと感じました。TVや映画にも勝る、本の素晴らしさを知ってほしいと思いました。ミステリー作家である横山秀夫さんは、これからも多くの小説を世に出してくれることでしょう。

新年の皆さんへ音楽の力によりエネルギーが与えられ、読書により校訓「文化の薫る学校」が一層進むことを祈っています。

島田第二中学校 池谷英人